

町長日誌 No.181



町長日誌の第181号です。町長が日頃町民の皆さんと話し合ったことや色々な出来事を町長自ら書いたものです。町民皆様のご意見・ご要望・ご感想をお待ちしています。

11月15日(木) PM 3:00

11月に入り今日で半月が過ぎましたが、雪が降りませんねえ！早々と10月中にタイヤ交換をされた方も多いことと思いますが、そろそろ降るのかなあ？と思いつつも暖かいことで高騰している灯油の使用量が減ることは家計に嬉しいことです。しかし、漁業の皆さんからは「水温が高いためか魚が少なくて困った！」と嘆きの声が聞こえてきます。「一次産業の町」とは自然に従い、ときには戦いながら人に不可欠な食物などを得る産業ですが、これまで日本では米国や欧州などの外庄により常に輸出産業の人身御供にされてきたのも「一次産業」でした。気が付けば農業経営者の平均年齢は68歳、食料自給率は40%を切っています。燃料を求めて戦うことになった第二次世界大戦時の食糧自給率は100%を超えていました。外交で総理が諸外国と交渉をするときに「食糧」というカードを相手国に握られて強気的外交が果たしてできるものなのか？私はいつも疑問に思っています。さらには、ただでも生産量の少ない農産物を輸出しようという現在の国の政策に私は更なる疑問を感じています。今朝の農業新聞にコメの備蓄が過剰になっているという記事を見つけました。長く続けてきた減反政策は現在廃止されていますが、美味しいAランクの米づくり競争が激しくなる一方で、日本人のコメ離れは一層進んでいます。このことは牛乳でも同様で、ヨーグルトやチーズなどの消費は飛躍的に増えたのですが、学校給食以外では牛乳を飲まなくなっているのです。さらに魚離れも深刻で肉類に押され日本人の食卓は大きな変化をされており、一次産業の将来にも大きな影響を及ぼしているのです。

10月22日(月)

八雲町で開催されるバイオマスセミナーに講師として参加しました。八雲町は北海道でもっとも古くから酪農が振興した町です。八雲町にも昔は雪印乳業の工場があり興部町と同じような発展をしてきました。役場の前庭に乳牛の像がある町は他にないと思います。八雲は尾張徳川家が開拓した町で、酪農のほかに「木彫り熊」発祥の地でもあります。酪農はデンマーク方式の放牧を主と

した中小規模の時代が長く続きましたが、最近は大型の法人経営なども出来つつあります。現在の農家戸数は興部と同程度なのですが、生産乳量は4万トンを超える状況で本町より1万トン少なく離農も多いようでした。バイオガス事業はこれから取り組む予定で昨年バイオマス産都市の認定を受けています。八雲はもともと太平洋側の町ですが旧熊石町と合併したことから日本海側にも面した稀有な町となりました。大型化が遅れた酪農と不漁が続く日本海の水産業を抱えて担当部局は苦勞が多いようでしたが、新幹線が町の中を通るといって、町としては活性化に取り組みたいようでした。

11月10~11日(土~日)

8日から12日まで東京出張でした。道路整備の要望団体や防災団体の全国大会と財務省などへの要望活動の毎日でした。土曜日は江東区の清澄白河という昔「木場」のあった街ですが、ここで佐呂間町と一緒に特産物販売を9~11日の3日間職員3名が出向いて行っていましたので、様子見がてら激励に行ってきました。日曜日は茨城県阿見町に行きました。この町には雪印メグミルクの大きな工場と物流センターがあります。道内の雪メグ工場のある6町と阿見町は年一回町長が交流会を行っていることから、毎年この時期に「北海道フェア」として各町の特産品を興部町が代表で販売しているのです。こちらは一日限りですが観光協会と役場職員4名が販売にあたりました。現在町ではこのような物販イベントなどに若手職員を研修として出張させ、町のPRはもとより特産品の説明など物販を通じて興部町をより深く学ぶことが出来るように取り組んでいます。お客様から「このチーズはどのように食べたらおいしいの？他とどこが違うの？」などの質問に即座に答えられないのが若手職員の常です。いかに自分が町の特産品を知らないか、お客様に大きな声で話が出来ないか、など様々なショックを物販に参加して受けるものなのです。案外、私たちは町の特産品と言われているものを知らない、食べたことがないということが多いものです。町の未来を考えるためには、まず今の町を知ることから始めなければならないと思われ職員を派遣しています。ただし、興部町の乳製品はどこに行っても結構有名ですよ！

いよいよ師走を迎えます。成年の平成30年、あと半年で「平成」も終了です。皆様にとって今年はどうな年であったか？夜長に振り返りながら年賀状を書くのもいいかもしれませんね。私は日々反省の毎日です。では、また。

お便りをいただく場合は、適当な便箋等を封筒など(使い古しのもので構いません)に入れ、封をして、町役場窓口か、お知り合いの町職員にお渡し願います。町長のみ開封とし、お返事をさせていただきます。不明な点は、総務課総務厚生係まで。TEL 82・2131です。

